

年 組 名前：

丹波山 住みたい村 1位



仲沢 篤志、武田 寛明、赤池 悠(富士北麓)
飯野 終平(大月・上野原) 赤池 悠(都留)

丹波山村は、移住専門誌が調査した「2024年版住みたい田舎ベストランキング」の「村」区分の総合部門で全国1位に選ばれた。村内で山村留学が盛んなことや、移住者へのサポート体制が充実していることなどが評価された。村によると、首位となったのは初めて。

〈飯野終平〉

移住専門誌
ランキング

山村留学、手厚い支援 評価

宝島社(東京都千代田区)が発行する月刊誌「田舎暮らしの本」2月号で発表された。ランキングは2013年から続く企画で12回目。移住や子育て支援策、自然環境、就労支援など、自治体を対象にした約280項目のアンケート結果から魅力を数値化している。今回は北杜市や身延町、小菅村など県内12市町村を含む全国587の自治体が回答した。

村は総合部門で1位となったほか、村区分の子育て部門で2位となった。村は21年に子育て部門で2位となったのが最高だった。

村地方創生推進室は、1位となった要因として、1992年から30年以上にわたり「山村留学制度」で村外から多くの家族を受け入れてきた実績を挙げる。住民有志でつくる「村移住定住推進協議会」が、移住者用の相談窓口やオンラインでの問い合わせフォームを充実させたことも高評価につながったという。

村地方創生推進室の担当者は「都会にはない自然豊かな環境や移住者に対する手厚いサポートが評価された。1位に選ばれたことを機に、村の魅力をさらに発信していきたい」と話している。

(2024年1月26日付 山梨日日新聞 16面)

問1

丹波山村は、移住専門誌が調査した、なにの、なに部門で全国1位に選ばれましたか。

問2

この調査は、どのようなアンケート結果から数値化しましたか。

問3

村地方創生推進室は、1位となった要因として、どのような実績を挙げていますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.